



学校だより

広島市立安北小学校
号 外

広島市安佐南区高取北二丁目30-1

TEL (082) 872-0881

FAX (082) 872-9681

平成26年度 「基礎・基本」 定着状況調査 結果報告

6月に実施した「基礎・基本」定着状況調査の集計結果を報告します。

広島県、広島市、本校の平均通過率は次のようになりました。

| | タイプ | 広島県 | 広島市 | 安北小 |
|-----|-----|------|------|------|
| 国語科 | 基本 | 73.9 | 70.5 | 68.8 |
| | 応用力 | 62.2 | 59.5 | 60.7 |
| 算数科 | 基本 | 79.7 | 79.5 | 71.0 |
| | 応用力 | 69.8 | 68.4 | 65.3 |
| 理科 | 基本 | 73.9 | 71.5 | 69.0 |
| | 応用力 | 63.5 | 61.4 | 62.0 |

【学習状況の調査結果の概要】

本校の児童は、概ね平均的な基礎基本の力が付いているものの、広島県と広島市よりやや低い状況にあるということが分かります。

タイプ別の「基本的な内容」とともに、「応用的な内容」の問題の通過率は、特に算数科で広島県、広島市の通過率を下回っていることが分かります。このことから、基礎・基本の力を育てていくことを大切にしながら、応用力を育てていく必要があるということが分かりました。

【国語科】

国語科は漢字の書き取り、慣用句、聞き取ること、ローマ字を読み取ることはよくできていました。一方、主語を選ぶ問題や、関係をとらえる問題、要旨をまとめる問題ができていませんでした。

文章の組み立てを読み取る力や、テーマに沿って書いたり、理由を挙げて書いたりする力をつけていく必要があると考えられます。

これらの課題を受けて、次の3つのような授業改善を行っていく必要があると考え実践を進めます。

- ① 説明的文章に慣れさせる指導→論理的な思考力
・キーワードを基に要点をまとめる。
- ② 家庭学習の工夫指導→読み取る力
・いろいろな文章を初見で読み取ることに慣れる。
- ③ 比較し理由をつけて表現させる指導→書く力、表現し発表する力
・ワークシートやノートに書く。・表現技法を学ぶ。・短時間で感想を考える。

【算数科】

算数科では、少し広島県、広島市に比べて計算力の定着が不十分でした。また、分数や、面積の問題にも課題がありました。式の順序がわかっていない児童もいました。

課題として、分数では、何を1として表すかを把握できていないことが挙げられます。また、図形の定義を正しく理解していても、それを使って式を作ったり、説明したりすることができないということが挙げられます。既習事項を使って、応用する力が低いことが表れています。

これらの課題を受けて、次の2つのような授業改善を行っていく必要があると考え実践を進めます。自力解決できた喜びを味わわせ、もっと解いてみたいという新たな意欲につなげていきたいものです。

- ① 既習事項を繰り返し復習し、定着を図る指導→体験と図を結び付けイメージする力
 - ・実際に分ける活動や、反復練習を継続する。
- ② 応用問題を正しく読み取り、自分の言葉で説明させる指導→問題を読み取り、判断する力
 - ・言葉や式を使った説明に慣れる。

【理科】

季節ごとの動・植物の様子を問う問題は、どちらも県平均を上回っていました。理科では、科学的な用語を使ってまとめる力も要求されています。実験用具や自然現象を表す言葉を使って事象を説明する問題の定着度は少し低かったようです。温度計の問題では、マイナスを読み取ることができない児童がいました。電池のつなぎ方は、回路になっていることをきちんと把握できていない児童がいました。輪ゴムを引っ張る長さとする距離を問う問題では、距離が長くなるという正しい表現が使えない児童がおり、通過率は50.4%でした。

これらの課題を受けて、次の2つのような授業改善を行っていく必要があると考え実践を進めます。

- ① 基本的知識・科学的な用語・技能などが確実に身につく指導→知識・技能を活用する力
 - ・履修事項の復習をし、予想を立て、観察実験を行い、注意点や使用法を明確にする。
- ② 自分の考えを表現する活動の充実を図る指導→思考する力・表現する力
 - ・目的を意識し、キーワードを正しく使って自分の考えを表現する学習

【生活】

児童質問紙に対する回答では、学校に行くことが楽しいと感じている児童は91.7%で、県や市よりも上回っていました。また、地域が好きだという児童や、あいさつができていてと感じている児童も同様でした。しかし、「自分のよさは、周りの人から認められていると思いますか。」という項目では、肯定的評価の子どもたちは52.1%でした。自己有用感を感じている児童が、少ないということがうかがえます。この課題の改善に向けて、次の2つの取り組みを進めていこうと考えています。

- ① 賞賛の場面を増やす指導→自己肯定感を高める
 - ・授業などの多くの場面で子どもたちの活動を認めたり、ほめたりして安心して過ごせる場を増やす。
- ② 新たな自分や友だちのよさを発見する指導→自他のよさを認める
 - ・道徳の授業等で自分や友達のよいところを見つけるクイズなどの学習に取り組む。

本校の児童は、学校に行くのを楽しみにしており、自分の力を伸ばしたいという意欲にあふれています。その気持ちに答えるべく、これからも、電子黒板を活用したり、共同学習の形態なども取り入れたりしながら全職員で研修を積み、児童一人一人の力を伸ばす授業作りに取り組めます。今後とも、ご理解ご協力のほど、よろしく願いいたします。